

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4751380019		
法人名	社会福祉法人 まつみ福祉会		
事業所名	グループホーム こもれび		
所在地	豊見城市宇高嶺111番地		
自己評価作成日	平成30年7月29日	評価結果市町村受理日	平成30年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaipokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JizyosyoCd=4751380017-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	介護リサーチおきなわ		
所在地	那覇市西2丁目4番3号		
訪問調査日	平成30年8月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

見晴らしの良い高台に位置し、赤瓦屋根のゆったりとした作りになっている。ホーム内は木製の家具が設置され、家庭的な雰囲気である。地域の祭りや、イベントには積極的に参加し、認知症カフェ、介護教室、認知症講演会、サポーター養成講座を行政と一緒に開催し、地域支援活動にも取り組んでいる。又、法人内託児所の園児との交流も積極的で、一緒に季節を感じる絵を創作したり、手遊び、音楽会、合同誕生会等関わりを多く持ち、入居者様も楽しみにしている。共生ケアも充実している。年2回の家族会を開催し、家族との関わりも多く持ち、情報交換を行っている。介護実習生や看護学生、職業訓練生、特別支援学校の福祉体験の受け入れも多く、日中は賑やかで、活気がある。

東シナ海が見渡せる小高い丘の上に、介護老人保健施設と保育園や障害者福祉施設があり、共生ケアをモットーとした複合施設に隣接している事業所である。利用者は、日頃から、朝の体操や清掃活動等で交流があり、地域のお祭りやピクニック等と一緒に出かけたり、地域行事やイベント等も合同で行っている。利用者の担当職員2名で、24時間生活変化シートを作成し、センター方式を採用した介護計画は、半年ごとに見直し、モニタリングも行われている。ケアマネジャーと看護師の資格を保有する管理者が、併設する施設の医師や歯科医師と連携し、利用者の健康面での家族との相談や服薬管理を行っている。地域の方も参加して毎月行われる認知症カフェに、利用者が参加し、職員が口腔体操や手遊び体操の講師として協力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務の中や会議、申し送り等、ホームとしてのケアの方法、方向性等を話し合い、ケアの統一を図る。	「地域の中でも安心して生活ができるように支援する」等の理念を、職員は手書きで名札入れに携帯し、困ったら理念を読み直そうというスローガンを掲げ、常に意識してケアに取り組んでいる。管理者は、今月のスローガンとともに、理念に沿ったケア方法について、申し送り時や会議等で話し合いを行い、ケアの周知に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の商店街に買い物に出掛けたり、地域の自治会主催の地域清掃に職員が参加している。地域の祭りに利用者と一緒に参加している。	利用者は、近所のマーケットへ食材の買い出し、図書館へ本を借りに出掛けている。また地域の行事や手作りした灯籠を持参して灯籠祭り等に参加し、交流している。職員は、地域の清掃活動に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症高齢者の日々の生活の様子、残存機能、入居者の役割、支援の方法等地域の人々や見学者にも周知活動している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、状況説明や助言、情報交換、ホームの運営やサービスの向上にも生かしている。	会議は、利用者・家族・老人クラブ会長・地域包括支援センター職員、知見者等が参加し、年6回開催しているが、地域代表は4回の参加となっている。会議では、現状報告、事故やヒヤリハット、外部評価等の報告を行い、議事録は玄関ホールにファイルを置き、閲覧できるようにしている。地域包括支援センターの職員より、講座についての案内があり、家族会のメンバーや職員等約30名が、認知症サポーター養成講座に参加している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて市町村窓口や広域連合に確認、相談しながら行っている。 認知症カフェ、認知症講演会など市町村と協力し開催している。	管理者は、申請代行や更新時に、市の窓口を利用者とともに訪れたり、地域ケア会議等で、担当者と情報交換をしている。行政からの依頼を受け、毎月行われる認知症カフェで、職員が口腔体操等の講師を務めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中や会議、申し送りの時などホームとしてのケアの方法、方向性を話し合い、ケアの統一を図っている。	身体拘束をしないケアについて契約書に明示し、リスクについて家族へ説明をしている。身体拘束抑制に関するマニュアルを作成し、現在身体拘束は行っていない。2か月に1回運営推進会議の中で、身体的拘束等の適正化のための対策を検討する会議を開催し、センサーを付けた場合の解除に向けた取り組みについて、勉強会を行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会や、外部研修に職員を参加させ、虐待防止に関する理解し職員間でも報告会を開催し周知を図っている。	高齢者虐待防止に関するマニュアルを作成し、毎月職員会議で、1時間勉強会を行っている。外部研修に参加した職員が報告会を実施し、職員間で情報を共有している。管理者は、「誘導」という言葉掛けを廃止し、「トイレへご「案内」に直す等、利用者への不適切な言葉掛けがないか注意を払い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会や、外部研修に職員を参加させ、権利擁護に関する制度を理解し職員間でも報告会を開催し周知を図っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明、契約書を十分に説明し、入居者の重度化や状態の変化に事業所として「出来る事、出来ない事」を説明し理解を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や、年2回の家族会等で、意見・要望を聞き取り、意見箱の設置と、話しやすい雰囲気づくりに努め、ご家族からの意見・要望を表してもらうように努めている。又出された意見や要望は職員会議等で話し合い、改善、運営に活かしている。	夏季と冬季の家族会や運営推進会議の中で、本人や家族から直接要望を聞いている。利用者から、日々のケアの中で新聞が読みたい、読書がしたい等の要望に応じている。庭のベンチが古くなっているので、取り換えてほしいとの要望があり、企業の協力を得て、新しいベンチ2台が設置されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で上がった意見、要望を部内会議に提案し、更に法人内の管理者会議に連動された体制となっている。日頃から職員の意見や要望を聞いたり、問いかけるよう努めている。	管理者は、毎月職員会議で意見を聞いている。祭り等外出する際の人員体制についての話し合いが持たれ、フレックス制による対応をすることとなった。今年度から副主任を配置し、シフトや年次有給休暇の取得についてなど、職員が直接相談できる体制を整備している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の推進や正職員への登用、ワークライフバランス等、職員の働きやすさ、やりがいにつながるよう職場環境の整備に努めている。	法人で就業規則が整備され、ワークライフバランスや資格取得の支援を行っている。敷地内に保育園があり、職員2名の子供が利用している。職員の健康診断(夜勤者は年2回)を実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格保有状態や、研修への参加状況を把握し、適切な研修の機会を設けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム協会連絡会に参加したり、他ホームと情報交換や施設見学を行い、サービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や本人様から、これまでの生活状況、不安、要望等の聞き取り、把握に努めている。又話しやすい雰囲気を作るよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所としてどのような支援や対応ができるか、ご家族の不安、要望を話し合いながら、関係を構築していく。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、事業所として「出来る事、出来ない事」を説明し、ご本人、ご家族の要望を確認して事業内のサービスにつなげるようにしている。法人内においては、各事業所の相談員が集まる会議があり、そこで情報を共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中から、得意な分野、興味のある分野を引き出すよう努めている。又一緒に行う事で喜びを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話での問い合わせに、日常生活の様子や行動を細かく伝えている。又年2回の家族会を開催し職員・ご家族の交流を行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時、馴染みの店、美容室に出掛けたり、ドライブの際に自宅周辺に寄るなど、ご家族の関係が途切れないようにしている。	センター方式の「私の生活史シート」を活用し、馴染みの商店街に、盛花を買いに行ったり、行きつけの化粧品店や美容院へ家族と出かける支援に取り組んでいる。30年以上継続している模合仲間と食事に出かけたり、友人達が事業所に立ち寄って他の利用者とも話ができるよう支援に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う、気が合わない等を見分けて、本人同士が支え合う事ができるように努めている。又職員が間に入る事で、入居者同士の関係がうまくいくよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた方でも、入居者様と面会に行ったり、支援方法など情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様から生活暦や趣味、好きだったこと等を聴き取りを行ったり、ご本人の要望を聞いたり、選択肢を用意するようにして出来る限り本人の意向に添えるように努めている。	センター方式の「私の暮らし方シート」を活用し、運動が好きな利用者と職員はウォーキングにかけたり、話し好きな利用者には話し相手となり、傾聴する支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人、ご家族から聞き取りを行ったり、ケアマネからの情報をもらったり、出来る限りこれまでの生活を把握するようにしている。又、入居されてからもご家族の面会時など聞き取りをするようにしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が状態の把握に努めている。気づきがあれば、日報や申し送り等で情報の共有を行っている。又介護職員で判断できない場合は、看護師に相談している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員で話し合い、それぞれの意見や要望をもとに介護計画を作成している。	サービス担当者会議には、利用者、家族、職員、医師等が参加し、睡眠や服薬についての話し合いが行われ、長期目標を1年、短期目標を半年として計画を作成し、随時の見直しも行われている。介護記録は24時間チェック方式で行われ、3か月ごとにモニタリングも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、日々の実施記録、特記事項、受診状況を記入し、情報の共有や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況に応じて病院受診などの送迎や必要な支援は、可能な限り対応している。平成26年口腔ケアチームの訪問を受け、平成28年からは摂食・嚥下・口腔ケアチームに相談体制が整い情報交換を行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の委員の方や、入居者家族などから、徘徊される方への対応など意見をもらっている。行政と共に認知症サポーター養成講座を開催し地域の方々にも周知できるように取り組んでいる。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続してもらう事で、ご本人の心身の状況をより把握できるように努めている。またご本人の様子や気になる事を同行受診や文書で主治医に相談している。	利用者は、入居前からのかかりつけ医に継続受診している。定期受診、他科受診は家族対応としているが、管理者が同行する場合もある。受診時は、情報提供書や連絡ノートで医療側と情報交換を行っている。半年に1回の心電図や採血検査等の健康診断を支援し、同一法人の歯科医や栄養士等に口腔ケアの相談も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師を配置しており、入居者の心身の状態の変化や、医療面でも相談、助言を得ている。又ご家族、主治医への病状の報告を行ってもらい適切な受診ができるよう支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関を訪問したり、文章で情報を提供したり、情報交換に努めている。又家族とも連携し退院後のケアについて早くから話し合うようにしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、ご本人の意向を確認しながら、又ご本人の状態を説明しながら医療機関の訪問診療、訪問看護につなげる。カンファレンスの際には必ず確認するようにしている。	現在、看取りの実施は行っていないが、看取りの実施に向けた体制作りを始めている。方針については、サービス担当者会議や更新時等に説明し、家族の意向も再確認するよう努めている。ターミナルケアについての職員の研修会を実施し、医師会の勉強会にも職員が参加している。同一法人施設の「看取りのガイドライン」を参考にして指針を作成する計画である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に対策をその都度検討している。急変時の対応は准看護師と連携しながら、日々見直しを行っている。	/	/
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、法人内の協力を得て、通報訓練、消火訓練、避難訓練を年2回実施している。	年に2回、昼夜想定での避難訓練を実施している。夜間想定での訓練は、運営推進会議の日に設定し、委員の参加・協力を得ている。実施計画書、実施報告書、反省会の議事録等が整備され、定期の消防点検も行っている。備蓄は、利用者との分を合わせた3日以上分の食料を備え、備蓄リストを作成している。自家発電機、懐中電灯、寝具等も準備している。	

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の気持ちを尊重し、思いや要望を出しやすいよう声掛けを行っている。	職員は利用者への支援にあたって、「一介護の前に一声(ひとこえ)を徹底する」ことをモットーにし、職員会議等で接遇や言葉遣いについて話し合っている。玄関前に毎月のスローガンを掲示しており、9月は接遇に関する8つの確認事項をきっかけ、利用者への接し方に留意するよう努めている。調理、洗濯、アイロン、漬け物作りなど利用者がやりたいことやできることを尊重し、支援している。	
----	------	--	-------------------------------------	---	--

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを受け入れるように、行動を制止するのではなく、安全に気を付けながら、付き添い対応を行っている。又ご本人が選択できるように問いかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調や心身の状態に合わせて買い物やドライブ、散歩に出かける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔などの身だしなみやおしゃれは個別に支援している、女性入居者に対しては、外出時、口紅やマニキュアなど、薄化粧を行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者が共同で可能な限り食事の準備を行っている、心身の状態に合わせて、無理強いないようにしている。	食事は、朝食と夕食は職員が事業所で作り、昼食は業者の配食を利用している。利用者は、下準備や調理、配膳、食器洗いなどに参加している。職員は弁当持参で、利用者とは別に食事を摂っている。朝・夕食は、担当制で献立を作成し、差し入れにより、臨時のメニュー変更をしたり、陶器の器に配膳するなど工夫している。毎年、利用者が職員と一緒に作った梅干しや桃の漬物、野菜の即席漬けなども一品として加え、行事に合わせて回転寿司などの外食も行っている。	グループホームの趣旨として、利用者と職員が同じ食事を一緒に摂ることは大切である。事業所の特性や事情を勘案しながら、職員が一人でも利用者と一緒に同じ食事を摂り、楽しめるような支援のあり方について検討が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は全員分を毎回チェックしている。水分摂取量を特に気を付けないといけない利用者はチェック表に記入している。それ以外の方も飲み終わるまで付き添い、確実に飲んだことを確認するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、歯磨きの声掛けを行い、自分で出来るよう支援している。夕食後は時に力を入れて行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認し、トイレ案内、トイレで排泄が出来るよう支援している。運動動作に失禁予防体操を取り入れている。	日中は全員、トイレでの排泄を支援している。排泄チェック表を確認しながら、2時間に1回を目安として声かけを行い、トイレへ案内し、ドアを開けて支援している。車イスの利用者は二人介助とし、利用者の状態に応じて、下着の上げ下げや水の流し方なども支援するようにしている。同性介助については、夜間などシフト上希望に添えない場合があることを利用開始時に説明している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中適度な運動や水分、乳製品、食物繊維を多く含む食品を取り入れるなど、自然に排便が出来るよう支援している		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯を決めずに、出来るだけ希望に合う時間帯に入浴できるように支援している。拒否のある方に対して時間をずらす、職員を変えるなどの対応やご家族に協力してもらい、一人一人に合った支援を行っている。	入浴は、週2～3回を基本とし、利用者の希望する時間帯の支援に努めている。連日の入浴を希望する利用者にも対応している。着替えの選択や準備をする利用者、入浴後のボディローションや化粧をする利用者の意向に添って支援している。拒否がある場合は、その理由を推察し、利用者の恐怖感や不快感に配慮して日時を変更するなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間の把握や室温、明るさ、寝具等、気持ちよく眠れるように支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人ファイルと専門のファイルに整理し職員が服薬内容がわかるよう努めている。薬の変更があった時は、申し送り等で確認してファイルに綴り、周知している。	利用者の服薬内容については、「薬つづり」に各々の説明書と一緒にファイルし、職員が共有できるようにしている。与薬は、名前、顔、薬名などを確認して3回のチェックを行うこととし、与薬時の注意事項を日誌に記載している。服薬の疑問点や誤薬に関しては、地域の薬局の薬剤師に、直接確認や相談ができる協力体制がある。誤薬事故があり、対策・予防について職員間で再確認して取り組むとともに、行政に事故報告を行っている。	服薬支援のマニュアルや誤薬対応マニュアルを作成し、職員の共有を図るとともに、安心・安全な服薬支援への更なる取り組みが望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、野菜のつくろいなど職員と一緒にいき、やり遂げる事で満足感が得られるよう支援をしている。又職員は必ず「ありがとう」と声掛けするようにしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じてもらえるよう、散歩や、ドライブ、買い物に出掛けるようにしている。車いすの方は法人内の車両を借りて外出するようにしている。	朝の日課として、利用者は保育園の園児と一緒にラジオ体操をしている。近隣のスーパーや花屋への買い物、ゴミ拾いをしながらの散歩があり、毎週水曜日には、グランドゴルフやシャボン玉を楽しむなど外気浴も行っている。読書好きな利用者の図書館利用を支援し、重度の方には玄関前の芝生での気分転換を支援している。桜見や浜下り、子どもの国へのピクニックなど、ほぼ全員でのドライブや外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人だけ、お財布に少量の金銭の管理をされている。コーゲンやお菓子を買に行きなど、ご自身で支払ってもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でも電話をかけたいときかけられるようにしている。又ご家族からの電話があった時は本人に代わるようにしている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な暖かさを感じられるよう、木製の家具など用いている。落ち着いた雰囲気や季節感を感じられるよう季節の飾り付けを行っている。(花・壁画、飾り物など)	共用スペースは、四季が感じられるような雰囲気作りを行い、訪問時は、廊下の壁に利用者が作成したはり絵の「花火」が掲示されていた。和室では、利用者が洗濯物たみやアイロン掛け、漬け物作りなどを行っている。今年、リビングのソファの座席を一人ひとりの固定席にすることで、落ち着いたテレビ観賞や団欒ができるように実施している。リビングの西日対策として、軒に日よけの網を設置している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年11月16日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールと庭先にベンチや椅子を置くことで一人でも他者とでも、くつろげる居場所づくりを作っている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本に合わせたベットの位置や部屋の飾りもの等、居心地の良い空間づくりに努めている。入居者には使い慣れたものの持ち込みをご家族に勧めている。	居室は洋室で、フローリングの中央部分に二畳の畳間を設え、ベッド、タンスなどが配置されている。利用者は、テーブルや椅子、ソファーなどを持ち込み、海の絵やウージ染め、孫の書道作品、新聞の切り抜き等を壁に飾っている。年に4回、環境整備としての行事を組み、年末の大掃除やワックス掛けの時は、家族の協力を得て行っている。オムツの収納については、目隠しなどの工夫を期待したい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、車いすの方でも移動ができるようになっている。又、ご本人の状態に合わせてテーブルや椅子を変更するなど配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホーム こもれば

作成日 : 平成 30 年 11 月 28 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価、及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	47	緊急マニュアル(誤薬)の綴りがあり、職員の周知も出来ているが、服薬支援マニュアルの作成が無く、安心・安全な服薬支援が更に取り組めるよう努めていく。	服薬支援マニュアルの作成を早急に作成し、職員間でも周知していく。	服薬支援マニュアルの作成を行う。	2ヶ月
2	40	職員は全員がお弁当を持参し、同じテーブルで食べていたが、指摘を頂き、一緒に同じメニューをいただく事は無かった。	上層部とも相談し、グループホームの趣旨として、利用者と職員が同じ食事を一緒に摂る楽しみを支援を行っていく。	平成30年11月1日から実施することが出来た。	ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。